

協会を支える分科会活動

分科会運営委員会 委員長 奥山 喜久夫

1. はじめに

2020年度より、バイオ粒子プロセス分科会が活動を開始し、分科会の総数は、21分科会となっている。分科会の活動は、国際粉体工業展と並んで、協会の中心的な活動であり、協会の企業会員同士および個人会員との交流、未入会企業の入会促進、新入会員をはじめ企業会員の会員継続に繋がる場として大変重要である。分科会運営委員会は、分科会のあり方を検討するとともに、分科会活動を活性化するための支援を行うことを目的としている。委員の構成は、委員長：奥山喜久夫、副委員長：浅井信義、鈴木康夫、委員：秋山聡、アドバイザー：増田弘昭の5名である（敬称略）。ここでは主として、2020年度新型コロナウイルス感染症流行下での分科会活動の全体的な状況、分科会運営委員会の活動の概要および2021年度の活動の方向性を述べる。

2. 2020年度の分科会活動の概要および運営委員会の活動

2-1 全般的状況

2020年4月に、新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言が発出され、通常の形態での分科会の本会合の開催が大変困難となり、特に年度前半の計画のほとんどが延期された。10月以降、この状況を克服するために、新型コロナウイルス感染症流行下における分科会の活動について、「オンサイト開催」と「Webセミナー開催」の進め方の指針が、事務局で作成され、この指針に基づいて、「オンサイト開催」では、体温の計測などの感染予防対策を徹底遵守しながら、次第に本会合を安全に開催することが可能となった。しかしながら、2020年度に開催された分科会の本会合は延べ19回、参加者の総数は約800名と残念ながら例年の半分以下と大変少なくなっているが、幹事会は、例年に近い回数で開催されており、Web会議の形で分科会の活動、特に本会合の開催の仕方などについて議論が行われた。環境エネルギー流動化分科会は、感染防止に配慮し、3回の本会合が見学会および講演会の形で開催された。さら

に、乾燥分科会、輸送分科会、晶析分科会、リサイクル技術分科会、造粒分科会など、また微粒子ナノテクノロジー分科会とクリーン化分科会が共同で、Webを利用しての本会合を開催し、分科会活動を進めた。

2-2 拡大分科会運営委員会および分科会連絡会議の運営

毎年度開催している拡大分科会運営委員会（2020年8月：京都）および分科会連絡会議（2021年1月：名古屋）も大きな影響を受け、オンライン併用による会議として開催され、分科会の活動報告、特に新型コロナウイルス感染症の流行下での分科会活動の進め方および課題が議論された。

拡大分科会運営委員会では、各分科会から本年度の事業計画の見直しが説明され、Webの利用による分科会本会合の開催に向けての議論が行われた。また、午前中に分科会運営相談会を、湿式プロセス分科会、バイオ粒子プロセス分科会、クリーン化分科会、分級ふるい分け分科会および造粒分科会を対象に実施した。この相談会では、分科会の活動および課題について、分科会の主要メンバーと分科会運営委員会の間で意見交換・相談し、問題点の解決のための議論をした。

分科会連絡会議は、緊急事態宣言下での新型コロナウイルス感染防止のために、各分科会からのほとんどの出席者がWeb出席で参加し、各分科会から2020年度の活動の状況、本会合の開催の変更ならびに2021年度の事業計画と運営方針・課題などの説明が行われた（写真-1）。また、分科会活動に貢献した個人の方々に対し第16回分科会功労賞、委員会・部門活動に貢献した個人の方々に対し第7回委員会・部門功労賞が、表-1、2の方々が、オンラインで表彰された。

2-3 個別分科会の教育部門での活動

分科会活動で得た有益な情報・知見を外部に発信していく場として粉体技術専門講座が開催されている。各分科会には、およそ5年に1回程度の開催が期待されているが、分科会活動と同様、厳しい状況下において、予定されていたいくつかの専門講座が中止か、来年度への延期となった。また、



写真-1 分科会連絡会議の様子

表-1 2020年度 第16回分科会功労表彰者一覧

氏名	所属	分科会
秋元 祐	赤武エンジニアリング(株)	電池製造技術
岸下年秀	ホソカワミクロン(株)	分級ふるい分け
桑原敏之	(株)ダルトン	造粒
杉野 隆	アマノ(株)	集じん
田中俊哉	フロイント産業(株)	粒子加工技術
津崎裕也	月島機械(株)	晶析
坪内 稔	(株)徳寿工作所	粉体ハンドリング
西村佳記	エステック(株)	リサイクル技術
細田博之	(株)神鋼環境ソリューション	環境エネルギー・流動化

(氏名50音順、敬称略)

表-2 2020年度 第7回委員会・部門功労表彰者一覧

氏名	所属	委員会・部門
大山 潤	(株)菊水製作所	「粉体技術」編集
桜井 博	国研産業技術総合研究所	規格
佐藤一彦	晃栄産業(株)	人材育成
深田英稔	アマノ(株)	粉じん爆発

(氏名50音順、敬称略)

座学と実習を行う粉体エンジニア早期養成講座について、すべてが中止となった。この講座は、少人数での若手人材育成事業として高く評価されているが、2021年度からは、より分科会が主体的に企画内容を決められる粉体技術者養成講座に変更される予定であり、2020年度は試行的に集じん分科会のみを開催した。

また、教育部門から離れた企画であるが、国際粉体工業展東京2020では、集じん分科会、粉体シミュレーション技術利用分科会、バイオ粒子プロセス分科会がセミナーを開講した。このように協会の他の事業との連携・協力も各分科会の重要な活動となっている。

2-4 分科会運営委員会の活動など

当初の計画通り4回の委員会を、うち1回は、拡大分科会運営委員会を含めて開催し、以下のような検討を行った。(i) 分科会活動の支援方法などに関する事。(ii) 拡大分科会運営委員会では、

分科会活動の紹介と分科会の組織の強化などへの対応。(iii) 新型コロナウイルス感染症流行下における分科会の活動における「オンサイト開催」と「Webセミナー開催」の進め方。

3. 2021年度の分科会運営委員会活動の方向性

- ①分科会運営委員会を年4回開催し、個別分科会の体制の見直しおよび活動の活性化に向けての検討・助言を行う。分科会の全体の体制に関しては、将来必要となる粉体技術は何かなどを議論し、必要に応じ新しい分科会の設立や統合、改廃案を提案する。
- ②拡大分科会運営委員会を開催し、分科会同士の情報交換・交流などを行い、分科会活動の問題点の共有化を図る。代表幹事などが交代した分科会、新設の分科会などから、分科会側から分科会運営に関する疑問点・問題点・提案を述べて頂き、より良い分科会にするための分科会運営相談会を開く。
- ③分科会同士の交流を活発にし、必要に応じて分科会の共同開催や関連する海外の学協会との海外での分科会の開催を、海外交流委員会と相談し進める。また、新型コロナウイルス感染症が引き続き流行する場合には、Webセミナー開催となることもやむを得ないが、できるだけ安全に配慮してオンサイト開催および分科会同士の共同開催を進める。
- ④2021年度より、従来の粉体エンジニア早期養成講座は技術者養成講座としてリニューアルされる。分科会が関連する基礎的な粉体技術を技術者に伝承することを目的とするが、実習は必須ではなくなる。開催頻度も分科会で自由に決定でき、Webセミナーの開催も含め、無理のない範囲で開催して頂きたい。

4. おわりに

分科会運営委員会は、分科会活動の全体的な検討を行い、協会としての分科会活動が将来に向かって順調に発展するように議論している。分科会同士の共同開催および2021年度より活動するAI技術利用委員会と分科会との連携などについて議論を進めたいと考えている。

おくやま きくお
奥山 喜久夫
広島大学名誉教授

E-mail: okuyama@hiroshima-u.ac.jp